

カウンタダウンシンポジウムin札幌

開拓に尽くした薩摩の志士たち 北海道と鹿児島



維新のふるさと 鹿児島

2018年に明治維新から150周年という大きな節目を迎えることを記念して、「明治維新150周年カウンタダウンシンポジウムin札幌」が11月20日、道新ホール(札幌市中央区)で開催された。鹿児島県出身で北海道でも活躍中の落語家、桂竹丸さんのトークショー、島津家第33代当主島津忠裕氏、北海道博物館元副館長出利葉浩司氏を交えてのパネルディスカッションなど、北海道と鹿児島との意外なつながりや歴史について語られ、会場を埋めた600人の参加者は、北海道との関係、鹿児島島の魅力に改めて触れた。



▲西郷隆盛 銅像(鹿児島市城山)

▲磯からの桜島

トークショー 落語家・桂竹丸が語る、北海道で活躍した薩摩藩士



落語家 桂竹丸師匠

落語家 桂竹丸師匠

北海道と鹿児島は似たところが多々あります。例えば、温泉が有名なこと。それにラーメンがおいしいこと。イモ文化も共通です。実は鹿児島というところ、イモとつながりがあります。ジャガイモ、サツマイモ、サトウイモを食べ、秋は北海道のジャガイモを食べるといのが一般的なのですよ。砂糖も北海道はビーエム、鹿児島はさとうきびで、日本の砂糖の生産は北海道と鹿児島が最も多いのです。

私がおかしいのは、鹿児島の人で負けて嫌いで、鹿児島は蛇口をひねると芋焼酎が出てくると言っていたら、どうですか(笑)。

愛していた人だったといえると思います。北海道がこれからの日本にとつて大切な土地であることを力説していた島津斉彬公の影響を受け、黒田清隆は当時の国家予算の約10分の1のお金を何年も北海道に注ぎ込みます。また、黒田清隆の功績の一つに、彼の銅像の前には銅像がそっくりですが、アメリカ合衆国農務長官ケブロンを日本に連れて来たということが挙げられます。それにケブロンが広げられているのが札幌農学校で教壇に立ったクラーク博士です。そして黒田清隆を頼りながら北海道に貢献、尽力した人物に永山武四郎がいます。札幌市中央区に北海道指定有形文化財の指定を受けた当時のモダンな建築物永山邸があります。あまりにモダン過ぎて黒田清隆が怒ったという逸話もありません。北海道庁長官であり、屯田兵の父と呼ばれ旭川には今も彼の名前から取った永山という地名が残っています。

つながる北海道-鹿児島、薩摩人の魂が北海道に生きる。



日本の近代化を薩摩藩が導くことができた理由や背景ですが、薩摩は大陸に近いという地の利を生かした、海外文化や国際情勢の影響を受けやすく、国際感覚が豊かで日本を取り巻く情勢を客観的に見ることができた。列強との実力差を一刻も早く解消したいという危機感が近代化に着手する動機になりました。また、財政改革に成功し経済的な制約が解消されたことも見逃せません。その台所事情に一役買ったのがコンブをはじめとする北海道の海産物(換物)で、琉球貿易の重要な輸出品でした。

久光公は生妻事件のときの行列の主役です。実務の手腕を發揮したようですが、もっと評価されてほしいと思います。

パネルディスカッション 開拓に尽くした薩摩の志士たち 北海道と鹿児島 出利葉 現在、北海道博物館の学芸員をしております。昨年まで北海道開拓記念館の学芸副館長をしておりました。今日は明治維新において、遠い鹿児島という土地で何が起ころうとしたのか、その姿を皆さまと一緒にあらためて勉強させていただきます。島津 幕末や明治維新は、私たちが住んでいる札幌市東区に在住しています。曾祖父が昭和の初めまで上富良野と長沼に持つという地は約80万平方メートルでしたが、私の東区の住まいは90平方メートルくらいです。世の中の流れと化したいたそんなんものかなと思います。(笑)

出利葉 歴史の教科書に出てくる名前のオンパレードですね。当時の日本の政府がたまたまそういう人を選んだというだけではなく、奇縁の考えや、他の藩に比べて薩摩の意思をまとめやすかったことなど、さまざまな背景があったと薩摩の人たちが開拓に来たというところですね。

桂 鹿島のいちき甲木野市の羽島という小樽にちよと似たようなところ、薩摩藩英国留学生記念館という施設があり、薩摩スチューデントの生きざまを物語る資料が公開されています。

出利葉 歴史の教科書に出てくる名前のオンパレードですね。当時の日本の政府がたまたまそういう人を選んだというだけではなく、奇縁の考えや、他の藩に比べて薩摩の意思をまとめやすかったことなど、さまざまな背景があったと薩摩の人たちが開拓に来たというところですね。

出利葉 歴史の教科書に出てくる名前のオンパレードですね。当時の日本の政府がたまたまそういう人を選んだというだけではなく、奇縁の考えや、他の藩に比べて薩摩の意思をまとめやすかったことなど、さまざまな背景があったと薩摩の人たちが開拓に来たというところですね。

桂 鹿島のいちき甲木野市の羽島という小樽にちよと似たようなところ、薩摩藩英国留学生記念館という施設があり、薩摩スチューデントの生きざまを物語る資料が公開されています。

出利葉 歴史の教科書に出てくる名前のオンパレードですね。当時の日本の政府がたまたまそういう人を選んだというだけではなく、奇縁の考えや、他の藩に比べて薩摩の意思をまとめやすかったことなど、さまざまな背景があったと薩摩の人たちが開拓に来たというところですね。

桂 鹿島のいちき甲木野市の羽島という小樽にちよと似たようなところ、薩摩藩英国留学生記念館という施設があり、薩摩スチューデントの生きざまを物語る資料が公開されています。

出利葉 歴史の教科書に出てくる名前のオンパレードですね。当時の日本の政府がたまたまそういう人を選んだというだけではなく、奇縁の考えや、他の藩に比べて薩摩の意思をまとめやすかったことなど、さまざまな背景があったと薩摩の人たちが開拓に来たというところですね。